

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>1. 健康でねばり強い子どもを育てる。 2. 自分で考え、すすんで実行する子どもを育てる。 3. 美しいものにあこがれ、だれとでも仲よく助け合う子どもを育てる。</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>1. 心身ともに健やかな子どもを育てる。 ・自己肯定感、自尊感情を育てる。 ・健康な体で、ねばり強い心を育てる。 2. 基礎学力の定着を図り、自ら考える子どもを育てる。 ・学習規律、読み書き計算の定着。 ・感動体験、成就感、達成感を味わわせる。 3. 自らを律し、助け合う子どもを育てる。 ・決まりを守って人に迷惑をかけずに生活できる。 ・協働の喜びを味わわせ、主体性・実践力を育成する。</p>
---	--

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(小・中学校) ○国語A・B、算数A・Bとも、県平均と比べると正答率は低い。ただ、昨年度の「たしかめテスト」と比べると県平均との差は少なくなってきた。 ○国語Aの漢字の読み書きについては、比較的正答率が高い。国語Bの内容を読み取り、必要な内容を整理し書くことや自分の考えをまとめることに課題がある。 ○算数A123×52 整数の乗法: 本校87.5%(県85.1%)、6+0.5×2 : 本校43.8%(県78.4%) 算数B 2桁の引き算の答えを求めることができるきまりを書く: 本校6.3% 無回答31.3% (県38.3%) ○国語A「古文に親しむ問題」: 本校31.3%(県71.9%) 国語B「物語を読み、自分考えを書く」: 本校12.5% 無回答34.4% (県45.3%)</p> <p>県(小学校[3年~5年]) ○3年生の国語・算数と4年生の国語は県平均と同程度または上回ることができた。 ○4年生の算数と5年生の国語・算数については、県平均を下回り課題がある。 ○4年生の国語の「作文」、5年生の国語の「物語・説明文の内容を読み取る」「作文」に課題がある。 ○4年生の算数「かけ算」: 本校54.4%(県63.1%)、「長さ・重さ」: 本校55.8%(県61.4%)の理解に課題がある。 ○5年生算数の「億と兆・概数の表し方」: 52.8%(県62.7%)「わり算」: 52.1%(県60.8%)「折れ線グラフと表」: 本校40.3%(県46.8%)に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○1日の読書時間1時間以上が 本校25%(県16.8%)と高い。しかし、読書が好きは、本校62.5%(県78%)と低い。 ○「自分にはよいところがある。」と思っている割合が少ない。また、学校のきまりを守れている割合が低い。 ○メディアとの接する時間1時間未満: 本校34.4%(県45%) また、テレビゲームを全くしない児童がいない。メディアと関わる時間が多く課題である。 ○家庭で授業の復習をしている 本校37.5%(県59%)と低く、家庭学習1時間以上: 本校47%(県71%) (家庭学習の不足が学力の定着に関係している。) ○自分の考えを発表したり、友だちと話し合ったりする活動の経験の割合が低い。</p>

<p style="text-align: center;">成果</p> <p>○独自に取り組む漢字テスト(大崎漢字)を学期ごとに行うことで、漢字の読み書きの県平均との差が縮まった。 ○朝学習やすきま時間の有効な活用を意識して取り組んだことで「H28年たしかめテスト」より県平均との差が縮まった。 ○28年度の「全国学カテスト」と比較すると、算数A・B、国語Aは県との差が縮まってきている。</p>	<p style="text-align: center;">課題</p> <p>○メディアと接する時間が多く、家庭での学習時間の確保に課題が見られる。 ○既習事項の定着が不十分であるため基本的な問題での誤答があり、今後の定着が課題となる。 ○規範意識が低い。 本校68.8% (県平均 91.4%) ○家庭学習の時間の確保と自主的に取り組む学習内容を指導する。 ○国語・算数とも記述式の問題に課題がある。</p>
--	---

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎基本の習得・習熟	学年末までに	全学年 ・条件に合わせて自分で文章でまとめることができるようになる。	・授業改善・・・岡山型学習スタンダードの「自力解決」「伝え合う」「察める」場面を設定することを共通理解する。 ・「まとめ」方の指導・実践(キーワードを使っている文章表現) ・データベースを使っての補充学習。 ・配定書を与え、がんばりを賞賛する。	・授業改善リーダーから、研修を受け、実践に生かしている。 ・データベースからの課題を管理等で使用している。 ・「大崎漢字」「大崎計算」課題を設定し、配定書に基づき取り組んで、児童のやる気や定着をはかっている。	50%	・岡山型スタンダードが定着してきている。 ・「大崎漢字」「大崎計算」の取り組みで、90%以上の合格児童が増えた。 ・データベースを使っての基礎基本の定着に取り組むことができた。 ・自分の言葉を使ってのまとめる児童が増えた。	80%	・授業の進め方にさらに徹底し、学年が変わっても同じような進め方でできるようにする。 ・「大崎漢字」「大崎計算」の取り組みを続け、できた児童に対する認定書を与え、励ましていく。 ・「エニバー」学習システムの活用から、全ての児童が授業にしっかりと関わっていきけるようにすることでさらに学力向上がねらえると考えた。
家庭学習の充実	学年末までに	全学年 ・「家庭学習のすすめ」に従って、家庭で決められた時間の学習に取り組むことができる。 ・メディアとの関わりをコントロールできるようにする。	・児童への徹底指導とチェックを確実に行う。 ・家庭への啓発活動(学校・学級便り、懇談会)を進める。 ・中学校の定期テストにあわせてメディアチェックを行う。 ・宿題の内容を見直し、下学年の既習事項の復習を繰り返し取り入れて定着をはかる。	・「家庭学習強化週間」を設けて、記録用紙に記入して、取り組んでいる。頑張っている児童の紹介を通信で行っている。 ・宿題の裏に下学年での既習事項を入れて、定着をはかっている。	50%	・月1回の「家庭学習強化週間」に取り組むことで家庭学習に対する意識が向上してきた。 ・既習事項の反復によって基礎基本の定着をはかることができた。	70%	・家庭学習への意識を日常のこととしてできるように取り組む。また、学習内容を充実させることが課題となる。 ・既習事項の反復を継続することで基礎基本の定着をはかる。 ・メディアとの関わりについては、学校と家庭が協力して取り組むことで改善していきたい。
規範意識、自己肯定感を高める。	学年末までに	・全校児童の9割が達成できる。	・「身だしなみ・そうじ・あいさつ・時間を守る」を徹底する。 ・地域との関わり、地域ボランティアの方に協力していただき体験を通して達成感を味わわせる。 ・全職員でほめることで、肯定感を高めていく。	・一斉下校の際に、帽子や名札のチェックをして、定着をはかっている。 ・2学期に「ほめほめカード」の取り組みを行い、よいことをした児童にカードを渡し、肯定感を向上を促した。	50%	・「身だしなみ・そうじ・あいさつ・時間を守る」については、あいさつ課題が見られるが残りの項目についてはほぼ達成できている。 ・「ほめほめカード」の取り組みや行事などで高学年の児童中心にがんばっている児童をほめることが効果的であった。	80%	・「身だしなみ」については、来年度から制服になるので指導がしやすくなる。課題は、あいさつについての取り組みとなる。本年度も児童会を中心に取り組んだがさらに児童からの取り組みとしていけるようになることが期待できる。 ・自己肯定感を高めるとの取り組みとして、役割をしっかり果たして来た達成できたときの成果を確実に評価していくことが大切である。

※達成度 「S: 目標を多きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

<p style="text-align: center;">小中連携の取組</p> <p>○学方向上の会で分析結果の交流などを通して、授業改善について検討 ○生徒指導の充実として、G-Uの活用や迅速な問題解決への取り組み ○学区での統一した取り組み・・・「笑顔であいさつ」「チャイムスタート」「メディアの有効活用」 ・中学校の定期テストに合わせて、ノーマディアの取り組み ○中学校の放課後学習支援に小学校から出向き、指導の補助をする。</p>	<p>・「身だしなみ・そうじ・あいさつ・時間を守る」については、あいさつに課題が見られるが残りの項目についてはほぼ達成できているようになっている。 ・「ほめほめカード」の取り組みを継続して行うことで81.8%・A101</p> <p>○家庭学習の取り組みについて、「家庭学習のすすめ」を配付し協力を仰ぐ、また、学校・学級通信等で家庭学習の重要性を知らせる。 ○学級P活動で、懇談会を積極的に開き、児童の様子や学習への取り組みをしっかりと伝え、家庭教育の重要性を理解してもらい協力を仰ぐ。 ○中学校の定期テストにあわせて行う、ノーマディアの取り組みを家庭にも協力をお願いする。 ○地域ボランティアの方に協力いただき、体験学習に取り組む。</p>
--	---